

# さわやか通信



## ～眼科ってどうよ？～

情報化社会といわれる現在において、我々は情報の90%以上を視覚、すなわち「眼」から得ており、これからの社会においてもこの「眼」は重要視されていくでしょう。眼科は感覚器の中でも視覚を専門に扱っている唯一の科であり、視覚に関しては内科的治療から外科的治療まですべてを網羅しております。

視覚に対するクオリティーを求めて、当院眼科にも多くの患者様が受診され外来は毎日混雑しております。現在、外来の診察医やパラメディカルのマンパワー不足により、眼科の検査や診察に呼ばれるまでの待ち時間は大変長くなっております。「どれぐらい長い？」と申しますと、**曜日によって差はありますが平均で2～5時間待ちの状態であり、眼科受診患者様には毎日御迷惑をお掛けしております。**

受診する患者様が多いため当院で手術を受けられる方も多く、昨年は手術室での科別の手術件数および緊急手術件数においてトップとなりました。これらの忙しい業務を堀田教授以下少数精鋭で毎日こなしております。



眼科では先に記したように「眼」、すなわち**眼球とともにそれに加えて眼球の付属器として眼瞼や眼窩などの疾患も治**

**療しております。**眼球とその付属器を扱っている眼科は、最も小さな部分を治療している科ではないかと思われれます。こんな小さな部分でも、角膜、虹彩、水晶体、硝子体、網膜など眼球を構成している部品は意外に多く、眼筋、視神経など眼球外で構成されるものまで含めるとさらに多くの部品から成り立っており、**「眼」は直径約24mmの小さな空間に大きな世界を作っております。**部品点数が多いため、眼科では取り扱っている疾患も様々です。結膜炎、角膜炎、びどう膜炎などの内科的治療を要する疾患から、白内障、網膜剥離、黄斑円孔など外科的治療が必要な疾患まで、小さな臓器にしてはかなり手広く扱っております。

このように忙しい日々を送っている我々ですが、研修医制度が始まって以来、眼科に入局する新人医師の数が全国的に減少しているそうです。人がいなければマンパワーが低下し、さらに患者様に迷惑をかけてしまいます。そのため、**少しでも多くの人に眼科に触れて眼科の楽しさを知ってもらうように、学生の講義から新人医師の診察指導手術指導まで医局員全員で頑張っている日々であります。**(眼科 須網政浩)

## 『がん専門薬剤師研修生を向かえて』

薬剤部は平成19年6月に日本病院薬剤師会から、『**がん専門薬剤師研修施設**』に認定され、今年1月7日から3月28日まで**がん専門薬剤師研修生1名**を受け入れました。昨年11月に研修希望者1名の応募があることを受け、院内外の専門医師に講義の依頼を開始しました。幸い化学療法部会が毎月開かれているため、出席されている先生方には快く承諾して頂き、**33講義計38時間のカリキュラムを設定**することができました。講師招聘手続きや、講義室の予約、プロジェクター借用、暖房依頼など、多くの職員の方々のご理解とご協力が得られたことにも感謝いたします。

私も幾つかの講義を聴講させていただきましたが、どの先生方も熱心で、豊富な資料や資料として配布できないほどの最新の研究内容まで盛り込んだ講義をして頂いたことに感謝しています。またご自身の特別講演に県外まで快く研修生を同行させていただいたこともありました。**院外からは聖隷三方原病院ホスピス院長である井上聡先生、東京大学附属病院薬剤部教授の鈴木洋史先生(第3回がん治療フォーラム)、がん専門看護師の難波美貴先生**の講義を受けることができ、非常に充実したカリキュラムになったのではないかと思います。また、がんプロの共同施設である聖隷浜松病院で開催された静岡県立大学の大門貴志先生の講義も受けることができました。講義のみならず、病棟業務、NST回診、内視鏡、腫瘍カンファレンス、放射線部、手術部見学などの実務研修なども多大なるご理解とご協力が得られたのは非常によかったと思っています。

**今後も、積極的にがん専門薬剤師研修生を受け入れることとしますので、また、皆様のご協力をお願い致します。**(薬剤部 鈴木吉成)



## アルブミン以外の血液分画製剤も一元管理がスタートします

血液分画製剤とは血液を原料として作成された薬剤のことでアルブミン、グロブリン、血液凝固因子製剤、トキシソイド等がそうです。最近の血液分画製剤による副作用に関する報道はご存知のことと思います。 **当時は安心な製剤**



**として投与されていた薬剤も時とともにその評価も変わります。** 国と製薬会社の責任が問われる時代から、血液新法の施行にともない、医療側の責任も問われる時代になってきました。 **患者さまに投与される血液分画製剤の必要性、安全性そして原材料の由来に関して情報提供することが必要とされる時代になってきたわけです。**

そこで、本院でも血液分画製剤の同意書を大幅に改訂し、これらの実情に合うものとなりました。同意書の最終ページには説明要綱を添付し、普段、血液分画製剤を使用する経験が乏しい方にも使いやすい形式にし

てあります。 **感染症の危険性、献血製剤、原産国**が容易に説明できる形になっています。医師以外の職員の方もぜひ一読していただければ、今の血液分画製剤の医療側の考え方を垣間見ることができるのではないかと思います。

また、アルブミンが先行して輸血細胞治療部の一元管理となっていますが、5月からは血液分画製剤がすべて輸血細胞治療部の一元管理となります。 **同意の取得から製剤管理そして使用ロットの管理まで行なわれます。** 医師個人の判断で使用されてきた血液分画製剤が一定の管理下に使用されることとなります。適応症等のフィルターがかかるため、移行時期には不便性を感じられるかと思えます。しかし、アルブミンがそうであったように、他の血液分画製剤の適正使用が浸透してくるものと思えます。よろしくお願いいたします。

(輸血・細胞治療部 竹下明裕)

### ～得たものは持久力！～

医療サービス課、診療報酬請求係の三室と申します。採用早々、 **病院で働きたいという希望**を聞き入れていただき、仕事にやりがいを感じながら、充実した日々を送っております。

生まれも育ちも磐田（旧竜洋）です。生まれは磐田と書きましたが、 **正確には、ここ、医大で生を受けました。** そうです、文字通りの生誕の地が職場となったのです。なんと行ってよいのか、ほどよい緊張感を受けています。

さて、私、先月までは、山梨県の大学に通う学生でした。大学の所在地は、標高600メートルに位置する山あいのまち。そこで4年間生活していたわけですが、それは、それは、のどかなまちで、都会のような遊び場はほとんど見当たりません。そんな環境におかれた学生としては、脇目もふらず、勉学にいそしむのが模範的な姿でしょう。

ところが、いくつになっても小さい子どもさながら、遊びの天才はいるもので、何にも無ければ、無い

なりに工夫して、勉強から逃れるべく、とにかく遊ぶことに心血を注ぐ輩はいるものです。まさに「三つ子の魂百まで」。自分の趣味に没頭する者、運動に入り浸る者、片や、毎日が宴会なんて者もいました。

私は、たとえば、あえて触れませんが……、一つ言えることは、 **授業に遅刻しそうになり、よく学校まで走っていたこと。** 懲りもせず、あきらめもせず、よくまあ走ったものです。その結果、もはや、 **毎日が高地トレーニングとも言えるところで、得たものは持久力だけ、** と言ったら誇張が過ぎるでしょうが、心身ともに、多少なりとも身についたその持久力をなんとか仕事で発揮していけたらと思っています。

まだまだ分からないことだらけで、みなさまにはご迷惑をおかけすると思いますが、職員の諸先輩や、患者さん、その他仕事で携わる多くの方に、まごころを以て接することを、いつも念頭において職務に励んでいく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

(医療サービス課 三室智愛)



### ～雪を見ない冬～

「冷えるなあ、今年も・・・。」と思っていた冬いつの間にか終わりを告げ、そろそろ夏が近づいて来ました。「ちょ、ちょっと待った、雪も見ずにもう冬が終わってしまった・・・。」私は長野県出身で、 **幼いころから雪を見ない冬はありませんでした。** 冬になれば必ず雪が降り、どんなに積もっても自転車で通学、授業でもスキーやスケートがある少年時代でした。

**浜松に来て1年3ヶ月の月日が経ち、** 早いもので二度目の冬を越しました。私が来てからは雪が降った記憶がないので、少し寂しくもあります。そんな時はやはり **「スノーボーに行きたいな」** なんて思いますが、今年は気が付けばもう桜が咲いて、暖かくなってしまいました。スキーやスノーボードは、新鮮な山の空気とすばらしい景色が楽しめます。最高な気分とよく冷えた美味しいビールを飲みながら、パウダースノーなんて考えただけで、ワクワクです。気持ちよく滑り、心地よく疲れた体に、地元の温泉！ハッピーです。今シーズンは駄目でしたが、年齢を重ねてもずっと体験し続けたいと思います。

話しが変わりまして、平成20年3月26日。ついに **我が家に、第1子が誕生しました。2966gの元気な男の子です。** 里帰り出産のため、毎日我が子には会えないのですが、送られてくる写メールを楽しみにしています。父親になったプレッシャーも感じますが、子供には丈夫に育ててほしいこと、そして一つでも多くのすばらしい景色を見てほしいと願っています。現在の私の夢は、子供とスノーボードに行くことです。昔から子供とキャッチボールがしたいなんてよく聞きますが、 **私の場合はスノーボード**です。もうしばらく時間はかかりますが、大きくなるまで元気な父でありたいと思います。(血液浄化療法部 臨床工学技士 江間 信吾)